

「麗澤の馬とふれ合う会」

～2019年度の活動をふり返って～



「麗澤の馬とふれ合う会」

麗澤大学馬術部

「麗澤の馬とふれ合う会」について

「麗澤の馬とふれ合う会」は、地域の障がい児その他の子供達に、馬とふれ合う機会をもつことで心身を癒し、さらに自立に向けて何がしかの手がかりを見つけていただくことを目的に 2013年9月に発足しました。

本会には医師もセラピストも居ませんので、「ホースセラピー」として活動するものではありません。参加を希望される方には、「本会はセラピーを行なうものではない。馬とのふれ合いを持つことで得られた気づきをご家庭に持ち帰り、状況の改善や自立に向けて生かしてもらう。そういうことでご理解いただけるのであれば」という趣旨を十分に説明した上で参加してもらっています。

活動に際しては、麗澤大学所有の馬2頭（麗輝、麗峰）を使用し、麗澤大学馬術部の学生およびボランティア数名のご協力を得て、月2回ぐらいのペースで活動を続けて居ます。

乗馬や馬を扱う経験の有無は問いません。「一緒に活動してみたい」、「ボランティアとして手伝ってみたい」・・・という方がおられましたら、下記問い合わせ先までお気軽にご連絡ください。

「麗澤の馬とふれ合う会」

連絡先メールアドレス: ht2011@reitaku-u.ac.jp

令和元年度（2019年4月から2020年2月まで）は5組の方に参加していただきました。これらの参加者5組の保護者と麗澤大学馬術部員1名の参加レポートを紹介することで、2019年度の活動報告とさせていただきます。

なお、プライバシー保護のため、文中の名前等はすべて仮名を使っていますのでご了承ください。

（文責：「麗澤の馬とふれ合う会」代表 中野 千秋）

1. 田中 恵美（理沙ちゃんのお母さん）

田中 理沙ちゃん（11才）

発達障害、聴覚過敏

4月13日、2019年度の馬とふれ合う会は、理沙がお気に入りの学生さんが卒業してしまっただけのスタートでした。どうなるかな？と思いましたが、新しい学生さんともすぐに打ち解け、楽しい時間を過ごせました。

2回目の4月27日、乗馬後のお馬さんのオヤツタイムに人参やリンゴをあげますが、麗輝はいつもオヤツを欲しがって前掻きをします。今までそれを穏やかな目で見つめていた麗峰が、オヤツを貰おうと、その日、初めて前掻きをしました。初めての前掻きということと、麗輝とは違って大きく力強い動きにビックリしました！

その後、お馬さんのお世話が終わってから、いつも学生さん方とオヤツタイムをするのを楽しみにしている理沙ですが、毎回、お兄さんやお姉さんと、マンガの話をしたり、外国語を教えてもらったり、面白い写真を見せてもらったり、楽しい時間を過ごさせていただいています。



部室での おやつタイム

5月には、学生さんと子供たちの関係も出来上がり、安心してお任せできましたので、私も他のお母さん方と井戸端会議を楽しませていただきました。ずっと、「ヘイキューブを食べてみたい」と言っていた理沙、6月にタイミングよく新しい袋を開けた時に、ウキウキでヘイキューブを手に取り、2年越しで味見をし「苦あ〜い！」と言いながらも、満足そうな理沙でした。



ヘイキューブ、苦あ〜い！

いつも麗輝に乗っていた理沙、一度麗輝が2～3歩小走りしたことがあり、「お〜おっ」とビックリ！「怖かった〜」と涙を見せる場面もありましたが、

その日は最後に麗峰にも乗せてもらい、楽しい気持ちで帰ることができました。その次に馬とふれ合う会に参加した時は、麗峰に乗せてもらい、「今日はスキップしなかったね～」と何度も言っていました。

その次も麗峰に乗せていただきましたが、麗峰まさかの膝カックン!? そこで緊張してしまった理沙に学生さん達がたくさん話しかけてくれて、楽しい気分で乗り終えることができました。

前期最後の馬とふれ合う会、若干緊張しつつも乗馬でき、このまま乗れるものだと思っていたところ、後期最初の10月5日、朝から小走りを気にして「お馬さんには乗らないよ～」と言っていた理沙。結局、お馬さんには乗らず、学生さんと一緒にお馬さんを引ながら30分歩かせていただきました。

理沙の様子を見つつ、「一周だけ乗って、あとは歩いてみたら？」と言ってみても、なかなか乗る気持ちになりませんでした。

その後、5回の馬とふれ合う会に参加させていただきましたが、残念ながら、毎回お馬さんを引いての参加になりました。



馬を引いて歩く理沙ちゃん

残念なことだけではなく、良いこともありました。30分間、学生さんとお話ししながら、砂地の馬場を歩き続けたことで体力がついたのか、学校の持久走で「一度も歩かず走れるようになりました!」と先生に喜ばれました。普段、あまり寝付きの良くない理沙ですが、お馬さんを引いた日の夜に、「今日は歩き過ぎて足が疲れたわ」などと言いつつ大欠伸。明るいと絶対寝付かない理沙が、電気を消さないうちに目を閉じて、スーッと寝付いたこともありました。

馬とふれ合う会…その名の通り、乗馬をするにしても、お馬さんを引いて歩くにしても、お馬さんとたくさん触れ合って、学生さん方ともたくさんお話をし、ゲラゲラ笑いながら、素の理沙でいられる素敵な時間です。

いつもたくさん理沙のお話に付き合ってくださいる学生さん、中野先生、一年間、本当にお世話になりました。

また、お会い出来る日を楽しみにしています!

2. 中山 実佳（和哉くんのお母さん）

中山 和哉くん（8才） 軽度精神発達遅延（自閉症スペクトラム）

息子の和哉は年少時に自閉症と診断されました。コミュニケーションが取りづらく、精神年齢が約1歳幼い感じで指示理解が取りにくい事があります。今年度から弟（5歳年中）も一緒に参加させていただくことにしました。弟も参加することで、和哉にとって良い刺激になればと思ったからです。

昨年と同様に、和哉は馬に乗るのではなく、紐を引いています。やはり「青」の麗峰くんが良いというこだわりがあります。一度、弟がどうしても「赤の紐の麗輝くん」に乗らなければならない時がありました。やはり和哉は「青の麗峰くん」にこだわり、どうしても麗峰くんを引いてくれませんでした。しかし、中野先生が麗峰くんと麗輝くんの紐を交換してくださいました。すると、「麗輝くんを引く」と言ってくれたので、ほっとしました。その後はいつものように紐を引いて歩いていました。

今年度は和哉の発言で変化がありました。弟も参加していたためか、和哉から「僕も乗りたい」と言ってくれました。「乗りたい」という発言は初めてだったので驚きました。しかし、いざ麗峰くんに近づくと「やっぱりいいや」と紐を持ってしまいました。この日も乗ることはありませんでしたが、気持ち的に成長したのかなと思いました。

弟と私が麗峰くんや麗輝くんに乗っている時、和哉は部員の方々と一緒に歩いています。途中疲れると、「疲れたので駅に止まります」と言って休んでいます。止まった時に麗峰くん、麗輝くんに触ったり、部員の方とおしゃべりをしたり楽しんでいました。電車がとても好きなので、電車に関連する話をしながら活動をしました。ゆっくり歩くときは「各駅電車」、速く歩いて欲しい時は「快速（特急）をお願いします」と言って歩いてもらいました。約30分間よく歩いてくれて良い運動になるなと思いました。

活動後は馬場の中で自由に遊ばせていただきました。中野先生が、「ここから先の馬場で」と場所を指定してください、そこで走ったり、遊んだりしました。砂地の馬場なので思うように走るのは難しいのですが、親子で楽しく遊ばせていただきました。和哉も弟もとても楽しそうでした。



今年度は参加回数が少なくなりましたが、和哉は麗峰くんや麗輝くんはもちろん、中野先生や部員の方々、他の参加者の方々に会うことを楽しみにしています。「麗峰くんや麗輝くんに会える？」と聞いてくることもあります。普段あまり見ることがない馬に会えることや、砂や土の上で歩くということとはとても良い刺激になっています。今はまだ紐を引いている和哉ですが、いつか馬に乗ってくれたらと思います。

来年度も和哉なりのペースで馬とふれ合う会に参加して行けたらと思います。中野先生、部員の皆様、いつも本当にありがとうございます。



馬場ならしなら おまかせください！？

3. 坂田 美奈子（晋助くんのお母さん）

坂田 晋助（15才）

軽度の発達障害（アスペルガー症候群に近い）

最初に… 中野先生をはじめ馬術部の皆さん、ボランティアの皆さん、今年度も大変お世話になり、本当にありがとうございました。皆さんの貴重な時間を私たちのために使ってください、心から感謝しています。

坂田晋助の母です。息子は中学3年生で、軽度発達障害があります。小学校は、3年生から不登校になり、5年生頃から週に数回保健室登校。中学校は、特別支

援学級で過ごしました。言語力に遅れはないのですが、コミュニケーションをとることや、人の多い場所がすごく苦手です。

今年度は高校受験の年でした。昨年に引き続き、麗峰に乗せていただきながら、馬術部のお兄さん＆お姉さんにいろんな話（愚痴と言います）を聞いてもらって、ストレスを発散して、麗峰が気分転換させてくれました。

中学生生活の目標にしていた特別支援学校専門学科職業コースに合格することができました。本当に、本当に、ありがとうございました！

中野先生に報告した直後、麗峰のところへ行き、「麗峰、ぼく合格できたよ！ありがとうございます！」と、報告していたのが印象的でした。

写真を探したら・・・

奇跡的に・・・これ誰？という写真が見つかりました（笑） 日付は2013年11月23日・・・9歳!? 小学3年2学期から不登校になって、お友達のお母さんにすすめられて、体験して仲間に入れていただいたので、入会直後の写真と思われます。石橋を叩いて叩いてそおっと渡る、超スーパー慎重な性格の息子なので、怖がって乗れないだろう・・・と予想していた両親は、ビックリでした。



9歳頃の晋助くん

当時は、麗峰＆麗輝にいろいろ話をしていたようで、「おうちで飼いたい！」とお気に入りでした。それがいつの間にか、馬術部の皆さんにいろいろお話しできるようになり、とても自信になったと思います。

馬と触れ合う会は、〇〇しなくちゃいけない！と強制されることはなく、乗りたい気分の際は、遠くから見るだけでも、なでてあげるだけでも、お話しするだけでも、そばにいても癒され、優しい気持ちになって、大人も笑顔になります。不思議な場所です。

6年半という長期間、ずっと見守ってくださった中野先生、麗峰＆麗輝、ありがとうございました。来年度は高校生・・・新しい環境になります。継続できたら良いな…と思っています。

4. 大塚 香織（伸夫くんのお母さん）

大塚 伸夫 くん（8才）
発達障害（自閉症、知的障害）

8歳の男の子です。馬と触れあう会に参加させていただいて、今年で3年目を迎えました。乗馬の前には、「お馬さん、乗るよ！」と楽しみにしています。

1年前までは、体幹が不安定で1人乗りが難しく、お父さんと一緒にお馬さんに乗る時間が楽しみでしたが、今年は思い切って1人乗りに挑戦しました。親としては落ちないかハラハラでしたが、初回ですぐに1人乗り成功したのは驚きました。

1人乗りが出来るようになったら、一気に表情が和らいで、笑顔が増え、のびのびと楽しめるようになりました。気分屋なところもあり、途中で降りたがることもありましたが、今年度の後半は決められた時間を最後まで乗れるようになり、内面的な成長も感じています。

昨年度までは、お馬さんに触るのも怖がりでしたが、今では「お馬さんありがとう」と撫でられるようになり、お馬さんの上で寝転がったり、叩いたり等、緊張が溶けすぎて心配になるほど急激な変化を遂げ、驚いております。

この1年で息子とお馬さんの距離が急激に縮まり、心や身体の成長の変化が見れて、楽しく有意義な年になりました。

このような経験が出来たのも、先生方や馬術部の皆さん達の協力のお陰で、とても感謝しております。

来年度も、お馬さんとの関わりを通して、どのような息子の成長が見られるか、とても楽しみにしています！

5. 佐久間 綾子（春香ちゃんのお母さん）

佐久間 春香ちゃん（15才）

知的障害、難聴

本年度も、本当に大変お世話になりました！

聴力障害と知的障害のある娘も、お陰様で支援学校の高等部に入学出来ました。小4から参加させてもらっているので、毎年、お世話になったお兄さん、お姉さんの卒業を見送るようになりました。

小さい頃には無かった悩みも出てきました。今は、歩きながら唾吐きをしたりします。馬上からもして、サイドウォークしてくださっているボランティアの方や学生さんたちには申し訳なく思っています。

馬に乗っている娘は、リラックスしていて、笑顔に溢れ、楽しそうにしています。リラックスし過ぎて、馬の上で寝そうになるほどです。本当に有り難い瞬間です。

唾吐きなどをしても、嫌な顔もせず対応して下さっている中野先生、学生の皆さんやボランティアの方々にも、本当に感謝しています。

本当にありがとうございました！



6. 持田 颯希（麗澤大学馬術部3年生）

「馬とふれ合う会」は、私の学生生活の中でとても大事なものになっています。顧問の先生、ボランティアの方々が支えてくださって、またクライアントの皆様がおられるからこそ、このような素晴らしい経験が出来ると嬉しく思っています。そして私たち部員も、この「馬とふれ合う会」に参加するごとに、とても多くのことを学ぶことができます。

私は一年生の頃からこの会に参加していますが、やはり初めは今より大変でした。普段子供たちと接することがあまりない上に、馬のこともまだよく知らなかったからです。初めは馬の横と一緒に歩いて、子供たちの安全を見守りながら話しかけることから始めました。その際、話しかけても返答がない時には、楽しんでもらっているか不安に思う時もありました。

しかし親御様方とお話をしたり、子供たちの様子をしっかりと見たりして、回を重ねるごとにそれぞれの性格や好きなこと、障がいの特徴などが分かってきて、一人一人に合った行動を取れるようになってきました。何回も繰り返し話している物の名前や洋服に描いてあるキャラクターなどについて尋ねると、嬉しそうにそれについて話をしてくれたり、笑顔になってくれたりした時は、私も嬉しくなります。

2019年度は、私は前期留学をしていたため途中からの参加となりました。そこで私は子供たちの成長に驚きました。約一年で馬乗れなかった子が馬に乗れるようになったり、決められた30分間、馬に乗れるようになった子がいたり、以前より自分から話せるようになっていたりと言成長していて、それを見てこの会が子供たちの成長に少しでも関わっているのだと実感しました。

また私が専攻している英語について興味がある子達がいて、英語で話しかけてくれたり、英語について質問してくれたりするので、私ももっと勉強して様々なことを教えてあげたいなと思うようになりました。

この経験を通し私は様々なことを学ぶことが出来ました。そして2019年度も「馬とふれ合う会」を無事に終えることが出来たことは、先生、ボランティアの方々、そしてクライアント様がいたからこそだと思い、とても感謝しています。

来年度以降も、私は「馬とふれ合う会」が親御様方、子供たちの楽しい思い出の一つになってもらいたいと思っています。そして、クライアントの皆さまが参加してよかったと思ってもらえるように、これからも活動していきたいです。来年度、私は学生最後なので、「馬とふれ合う会」の一回一回を大切に参加し、皆さんとより楽しく安全に参加していきたいと思っています。